

地域全体で患者支えよう

医療鼎談 てんかんを考える

てんかんは脳の慢性疾患で、けいれんや意識消失などの発作を伴う病気です。小児から高齢者まで誰もが発症する可能性があり、日本の患者数は100万人に及びます。患者さんや家族が安心して地域で暮らすにはどんな取り組みが大切でしょうか。専門医や行政、地域医療の関係者が話し合いました。敬称略。

(コーディネーターは広島大副理事 山内雅弥さん)



広島大学病院てんかんセンター長
飯田 幸治さん



広島県医師会会長
平松 恵一さん

てんかんの治療法は、どこまで進化していますか。

飯田 てんかんは大脳の神経細胞が異常に興奮し、突発的なけいれんや意識消失などを起こす病気です。原因は脳の先天的な奇形、髄膜炎や脳炎といった感染症や頭部外傷など多様です。治療は抗てんかん薬の服用が中心。2006年以降、副作用が少なく新薬が8剤も保険適用され治療の選択肢が広がりました。

一方で2、3種類の抗てんかん薬を適切に2年以上服用しても月1回以上の発作が起こる場合は「難治性てんかん」と判断します。その際は、発作を引き起こす脳内の「焦点」を切除する手術

重要でした。この3年間で情報共有を目的としたワーキング会議や症例のカンファレンスを頻繁に開き、両者を結ぶネットワークを構築しました。

平松 今後は2次診療を担う病院と、患者さんを最初に診る1次診療(かかりつけ医)の協力体制の強化が欠かせません。しかし、発作を起こした患者さんが最初に診察を受ける医療機関は、小児科をはじめ、神経内科、脳神経外科などさまざまです。てんかんの知識が豊富なかかりつけ医がそれほど多くないため、診断力を高める必要があります。

高齢者の発症も増えていると聞きました。

高齢者の発症も目立つ 飯田さん

開業医の診断力高める 平松さん

医療と福祉の連携に力 田中さん

を検討します。近年は磁気共鳴画像装置(MRI)や脳磁計(MEG)など脳の検査技術が飛躍的に向上しており、手術で根治できるケースが増えています。

焦点が特定できなかったり、切除が難しかったりする場合は、緩和手術をします。発作の程度を軽くする装置を体内に埋め込む「迷走神経刺激療法」が10年に保険適用されています。

専門治療の拠点「てんかんセンター」を置く広島大病院(広島市南区)が、厚生労働省のモデル事業「てんかん診療拠点機関」に指定され、実施期間の3年間を終了しました。

田中 事業の狙いは、患者さんがより適切な治療を受けられる体制づくりです。そのために、難治性の患者さんに外科治療もできる3次診療(てんかんセンター)と2次診療(県内の中核病院8施設)の連携をどう図るかが

飯田 てんかんの患者さんは3歳未満の子どものみならず、60歳以上も多く見られます。高齢者てんかんの原因は脳梗塞や脳出血などの脳血管障害が最も多く、次が認知症です。アルツハイマー型認知症とてんかんの合併症もよく見られます。高齢者てんかんは、ほんやりした表情を浮かべるだけというようないれんを伴わない症状が多いため、認知症と間違われやすいのが特徴です。高齢の患者さんにも適切な診断と治療、ケアが必要です。

今後の取り組みは、

田中 てんかん治療の標準化を図るには、1次診療も含めた連携が重要と考えています。モデル事業の下地を生かし、患者さんを中心に地域で医療に携わる人々が協力して治療するための治療計画書「地域連携パス」などを用いた連携体制の構築を推進していきたいと思っています。また、

医療や福祉などの分野が連携して、支援を必要とする人を地域で支える「地域包括ケアシステム」の推進や、教育・就労面での支援も不可欠です。



広島県健康福祉局長
田中 剛さん

医療や福祉などの分野が連携して、支援を必要とする人を地域で支える「地域包括ケアシステム」の推進や、教育・就労面での支援も不可欠です。

広島大病院てんかんセンター長の飯田幸治さんらを講師に迎えた市民フォーラム2018「てんかんを考える」(中国新聞社主催)が10月28日(日)13時30分から、広島市東区二葉の里の広島県医師会館1Fホールで開かれます。聴講を希望される方は、はがき、ファクス、電子メールのいずれかで17日(水)までに応募ください(必着)。入場無料。定員は300人。応募多数の場合は抽選になります。

10月28日に市民フォーラム2018
「てんかんを考える」

はがき 〒730-0854 広島市中区土橋町7-1中国新聞ビル4F 問い合わせ 082-236-2860
メディア中国医療セミナーチーム (土日祝除く9:30~17:30)
「てんかんセミナー」係 郵便番号、住所、名前、年齢、電話番号、参加人数、てんかんに関する質問(あれば)を明記してください。
FAX 082-232-7977 ※質問は講演や質疑応答の参考にさせていただきます。
電子メール event-1@media-chugoku.jp ※質問は講演や質疑応答の参考にさせていただきます。
※個人情報は、聴講券の発送と、抽選にもれた方への通知(応募多数の場合)のために利用し、メディア中国が責任を持って管理します。

広島大病院てんかんセンターへの問い合わせ ☎082-257-1719